

栃木市 校務 DX 計画

1. 本市における課題について

令和5年3月に文部科学省が「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を取りまとめ、各自治体に次世代の校務 DX の方向性が示されたところである。

上記提言では、今後数年かけて校務系・学習系ネットワークの統合と次世代の校務支援システムの整備を行うとともに、クラウド活用を前提とした GIGA スクール環境の積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であるとしている。

本市においても、以下のような課題が存在しており、上記提言においても同様の課題が示されている。

(1) 学校のネットワーク環境について

本市は現在、学校内に教職員が校務で使用するパソコン等が接続された校務系ネットワークと主に児童生徒が使用する1人1台端末が接続された学習系ネットワークがあり、ネットワーク間の通信はできないように分離されている。

そのため、セキュリティが担保されている一方、教職員は校務用と学習用の2台の端末を使用する必要があり、校務用端末と学習用端末間で容易にデータ移動・共有ができないことや校務用端末の使用場所に制限があることなどの課題がある。

(2) 校務支援システムについて

現在使用している校務支援システムは、オンプレミス型（自庁設置型）であることなどから、文部科学省が示すロケーションフリーな校務作業ができないことや外部システムとの連携が難しいことから、重複した手入力作業が発生しているなどの課題がある。

(3) 学校における FAX や押印について

令和6年12月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があることや校外との連絡に FAX を使用する場合があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されており、本市においても同様となっている。

2. 1において示した課題を踏まえた今後の方針

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や文部科学省から示されている「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」を踏まえ、上記1に記載した課題の解決を目指していく。

(1) ネットワーク環境と校務支援システム

以下の方策により、端末への不正アクセスを防ぎ、児童生徒の個人情報データを厳重に保護した上で、場所や時間に縛られない柔軟な働き方の実現や事務作業の効率化をすることにより、教職員の働き方の改善を目指していく。

①校務系・学習系ネットワークの統合

アクセス制御等による十分なセキュリティ対策を講じる「ゼロトラストセキュリティ」と呼ばれる考え方を踏まえ、校務系と学習系ネットワークの統合または部分的な統合及び教職員の端末を2台（校務用端末と学習用端末）から1台に集約することについて、検討する。

②校務支援システムのクラウド化

ロケーションフリーな校務作業の実現や不要な手入力作業の削減に向けて、校務支援システムのクラウド化及び外部システムとのデータ連携が可能な次世代校務支援システムの導入について、検討する。

また、教職員による業務効率化の推進が可能となるよう、校務支援システムのクラウド化と併せて、クラウドツール等の活用についても検討する。

(2) FAX・押印の見直し

FAX や押印が必要な場面等の確認を行い、ルールの見直しやクラウド等のツールの利用などについて、関係部署内で協議を進めていく。